

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 神学部の専門領域〔聖書学（旧約聖書学・新約聖書学）、歴史神学、組織神学（宗教哲学を含む）、実践神学〕とその内容について学部の内外に周知を図ると共に、神学部の理念・目的との関連について定期的な検証を行う。	→履修モデルの作成と公開（WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映〔心得に掲載〕）	C
2. 上記専門領域を基礎とした履修コース（キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース）それぞれの意義付けを、カリキュラム編成に生かす。	→コース名称の変更とカリキュラムの改訂（ともに2011年度までに）	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

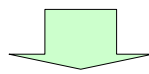
☆ 小項目0.0.1	<p>(理念・目的) 【神学部の理念・目的】 神学部は、「キリスト教の伝道に従事すべく選ばれた者を鍛錬する」（関西学院創立時制定の「憲法」第二款「目的」）ことを理念とし、これに則って、キリスト教神学の基礎と専門領域双方の教育を行う。その目標とするところは、人間を自然と社会、思想と文化との関わりにおいて考察し、そこにある問題を探り出し、今日における生の意味や生きることの規範を見出して、それをキリスト教の福音に基づいて広く他者に伝え、社会に奉仕する人材を育成することにある。</p> <p>神学部の専門領域は、伝統的なキリスト教神学と、これらと密接な関連をもつ学際的研究領域から成り立っているが、神学部はキリスト教神学を聖書学（旧約聖書学・新約聖書学）、歴史神学、組織神学（宗教哲学を含む）、実践神学の4つに構成している。さらに2004年度から、神学部存立の理念をより拡大し、社会の要請に応えることを意図して、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想および文化的財に関する学際的な研究領域として、キリスト教思想、キリスト教文化のカリキュラムを設けた。</p> <p>当面の目標は、この新たな分野での人材育成を実現させることであるが、これに加えて以下の点を、教育目標および人材育成の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学力の錬成 キリスト教に関する基礎的な知識を修得する。 2. 全人的教育による対話能力の育成 少人数の授業によって、学問研究の基礎を学ぶと共に、人間関係を築き、担当教員との人格的なふれあいを通して、人格の陶冶を目指す。 3. 健全な社会人の育成 キリスト教全般にわたる基礎知識に裏打ちされ、しかも、現代の社会と人間に対する洞察力を持ち、明確な人権意識を持って、柔軟に思考することのできる職業人を育成する。 <p>(現状説明) 神学部の理念・目的は、関西学院創立時に制定された「憲法」に記されているものを受け継ぐと共に、2004年度よりキリスト教思想・文化コースを設けて、さらなる展開を目指したものとなっており、適切であると言える。</p>
------------	--

★ 小項目0.0.2	(現状説明) 神学部の理念・目的、ことに2004年度の学則改正によって設けられた履修コース制については、WEBサイトなどを通じて社会に公表され、ことにキリスト教会とキリスト教主義学校、また、受験生とその保護者層には認知されていると言える。しかしながら、本学構成員（教職員および学生）に対しては、その意義や実態が周知されているとは言えず、なお一層の努力が必要である。
★ 小項目0.0.3	(現状説明) 理念・目的の適切性については、2010年度学則改正に向けた検討過程を通して検証を行った。また毎年度の自己点検・評価を実施する上で、自己評価委員会（学部）・学部長室委員会での精査を行い、教授会にて周知を図っている。
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★ 小項目0.0.1	2004年度に開始し、2008年度に一部改正を行った履修コース制のカリキュラム（学則）を精査し、2010年度に向けてさらに科目の順次性などの見直し（改正）を行った。これにより、別に設定した各専門領域（旧約聖書学／新約聖書学／歴史神学／組織神学・宗教哲学／実践神学）における履修モデルを参考に、各自の興味・関心に応じて柔軟な履修ができるようになった。また全学開講科目あるいは他学部開講科目の履修についても自由度が増し、例えば現代的な課題を神学的な見地からどう考えるか、など学際的な学びができるようになった。
★ 小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
★ その他	



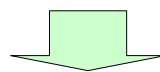
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★ 小項目0.0.1	2つの履修コース（キリスト教神学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コース）および専門領域の4構成（旧約聖書学・新約聖書学／歴史神学／組織神学・宗教哲学／実践神学）を適切に反映した改正カリキュラムを施行し、その内容について学部内の理解を徹底するとともに、理念・目的との関連について定期的な検証を行う。また、ディプロマ・ポリシーに基づいて、カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップを策定する。
★ 小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
★ その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★ 小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	本学の構成員（教職員および学生）には、神学部における履修コース制の内容、またそれを担う教員構成について十分に理解されていない面があるので、周知方法を検討しなければならない。
★ 小項目0.0.3	
★ その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★ 小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	WEBサイトの充実、『神学部報』などの広報媒体を通して、学内への周知を図る。
★ 小項目0.0.3	
★ その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○学部の理念・目的について、教職員及び学生に対する周知が、更に工夫されることが望まれます。

【学内委員】

○神学部の理念・目的は関西学院のよりどころとなるものです。したがって、大学の中では少人数の学部であります。その存在の意味は大きい。

○理念・目的などについては目標にもかかわらず適切に社会に公表しています。しかしながら、記述にあるように本学構成員への周知に課題があります。また、関係者以外の一般社会への周知度、認知度について考える必要があるのではないのでしょうか。公表した結果どのように周知されたのか、認知されているのかは重要なことです。

○コース制の設定とカリキュラムの充実については、順調に進展しています。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
